

— 14. 支部通信欄 —

1 事務局からのお願い

(1) 退会・転出・転入された方へ

機関誌・各種御案内などの発送は学会本部事務局の会員名簿に基づいて行っております。日本気象学会から退会される方、北海道支部から他支部へ転出される方は、日本気象学会本部事務局へ連絡すると共に支部事務局へも連絡願います。(事務局への連絡は、支部機関誌「細氷」末頁の『所属(住所)変更届』をご利用下さい)

(2) 学会への勧誘について

気象に関心をお持ちの方が身近におられましたら、気象学会への入会をお勧め願います。入会申込書は気象学会HP、支部事務局にあります。

会員の種別は通常・特別・団体・賛助・名誉会員があります。

会員の種別および年会費は下表のとおりです。また、A会員には気象学会機関誌「天気」のみ、B会員には「天気」と「気象集誌(英文論文)」が配布されます。また、北海道支部発行の機関誌「細氷(研究発表会の要旨や解説等)」が無料配布され、更に学会が発行している「気象研究ノート」なども会員価格で購入できます。

	通常・特別 A会員	通常・特別 B会員	通常・特別 学生A会員	通常・特別 学生B会員
年会費	6,900円	12,600円	4,200円	8,100円
支部機関誌「細氷」	無料配布	無料配布	無料配布	無料配布
気象学会機関誌「天気」	無料配布	無料配布	無料配布	無料配布
気象集誌(英文論文)	有料購入	無料配布	有料購入	無料配布
気象研究ノート	有料購入	有料購入	有料購入	有料購入

2 編集後記

今年の北海道は春先暖かい期間が続き、桜も平年よりかなり早く開花したところが多くなりました。しかし、7月下旬から8月上旬にかけて近畿・関東甲信地方などでは、短時間の局地的な大雨による河川等の増水で、尊い命が犠牲となってしまうという事もありました。

天気の変化や、また、気象情報などに十分注意して頂きますようお願いいたします。

本号の編集にあたり、原稿執筆者を始め多くの方々にご協力をいただきましたことに感謝申し上げます。掲載内容についてご意見・要望、アイデア等をお寄せください。

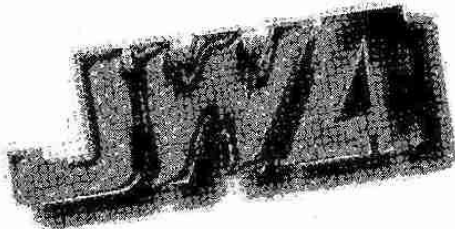
この通信欄は、支部会員相互の情報交換にもお使いいただけます。ご希望の方は原稿を支部事務局までお寄せください。

日本気象学会北海道支部事務局

〒060-0002 札幌市中央区北2条西18丁目
札幌管区气象台技術部気候・調査課内
Tel 011-611-6147 Fax 011-611-3206
ホームページアドレス <http://msj-hokkaido.jp>

JWA
JAPAN WEATHER ASSOCIATION

明日の自然を見つめる。



財団法人日本気象協会

- 本社/東京都豊島区東池袋3丁目1番1号 TEL(03)5958-8130
- 首都圏支社/東京都豊島区東池袋3丁目1番1号 TEL(03)5958-8130
- 北海道支社/札幌市中央区北4条西23丁目1-18 TEL(011)622-2230
- 東北支局/仙台市太白区向山4丁目20番14号 TEL(022)216-4181
- 東海支社/名古屋市北区水草町1丁目21番5号 TEL(052)912-1111
- 関西支社/大阪市中央区南船場2丁目3番12号 TEL(06)6266-8420
- 九州支社/福岡市中央区大濠1丁目6番33号 TEL(092)734-7441

- 気象、雪氷、環境調査
- 各種(気流・吹雪・吹きだまり・霧等)数値シミュレーション
- アイスプラント(氷温貯蔵庫)の設計、監理
- MICOS-Vによる気象情報提供
- 天気予報解説、気象予測情報提供
- 水文調査、水収支解析
- 海象調査解析、波浪予測
- 道路気象、農業気象調査
- 気象情報提供システムのコンサルティング
- 気象測器の販売、保守管理、精度試験および修理

主要扱い品目 気象、海象、測量、精密測定、コンピューター、自動図化、GIS、GPS

計る、図る、測る、量る の総合商社です。



株式会社 岩崎

— 製品紹介 —

- 携帯型分光放射計 MS-720 本体 ¥1,460,000 (税別) ~
英弘精機株式会社

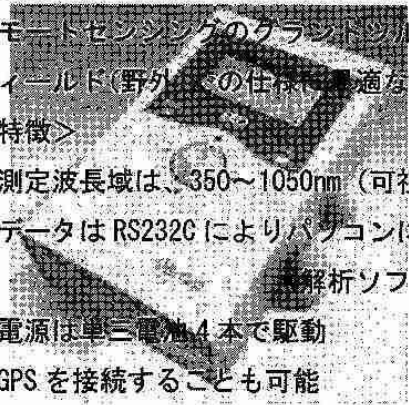
<概要>

波長別の光の放射量を測定する装置です。

リモートセンシングのグラウンドステーション等におけるフィールド(野外)での仕事に最適な分光放射計です。

<特徴>

- ・測定波長域は、350~1050nm (可視~近赤外域)
- ・データはRS232Cによりパソコンに転送
(解析ソフト付)
- ・電源は単三電池4本で駆動
- ・GPSを接続することも可能



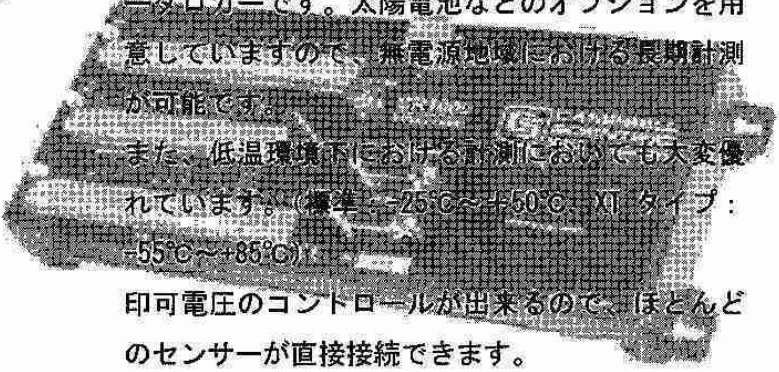
- データロガー CR1000
本体 ¥307,000 (税別) ~
Campbell Scientific, Inc

<概要>

プログラム可能な多チャンネルのフィールド用データロガーです。太陽電池などのオプションを用意していますので、無電源地域における長期計測が可能です。

また、低温環境下における計測においても大変優れています。(標準型: -25°C ~ +50°C、XIIタイプ: -55°C ~ +85°C)

印可電圧のコントロールが出来るので、ほとんどのセンサーが直接接続できます。

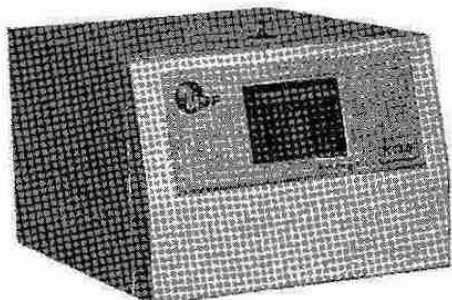


〒060-0034 札幌市中央区北4条東2丁目1番地 / TEL011-252-2000 / FAX011-252-2009

ホームページ: <http://www.iwasakineta.co.jp>

営業拠点: 旭川・釧路・帯広・函館・北見・苫小牧・網走・室蘭・稚内・小樽・留萌

ワイドレンジ粒子スペクトロメータ 1000XP



光散乱技術、微分モビリティ分析技術、
および凝縮核測定技術を駆使し
10nmから10,000nmを
120チャンネルの分解能で計測！！

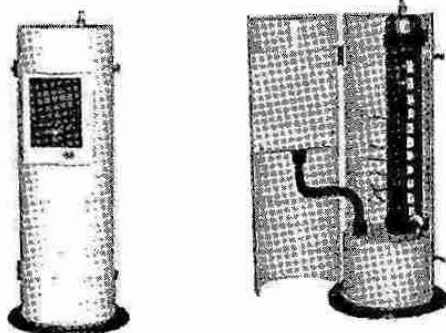
- ・ コンフィギュレーションA:DMA+CNC+LPC
- ・ コンフィギュレーションB:DMA+CNC

サンプリング流量	コンフィギュレーションA:1L/min、コンフィギュレーションB:0.3L/min
可測粒径範囲	コンフィギュレーションA:10-10,000 nm、B:10-500 nm
CPC蒸縮液	n-ブチルアルコール(ブタノール)
DMAS+GPC粒子濃度範囲	500~10 ⁷ 個/cm ³ (トータルエアロゾル濃度)
LPS粒子濃度範囲	0~500個/cm ³ (トータルエアロゾル濃度)
計測時間	SMS, SWS:24~400秒、DMS, WPS:24~1200秒、LPS:1~3200秒
粒径分解能	12、24、48、96チャンネル:SMSモードにてLOG 又はリアスケール1~96チャンネル: DMSモードにて、24チャンネル:LPSモードにて、120チャンネル:WPS、SWSモードにて
サンプリング・インターバルタイム、平均回数	60秒~24時間 ユーザー選択、2~999回
動作温湿度	10~35°C、0~90%RH(結露しない事)
電源	90~264VAC、47~67Hz、単相、安定時135W、立上時160W
外観寸法(WxHxD)	約432 x 318 x 521mm
質量	約25Kg

Model 120 Moudi-II™

Model 125 NanoMoudi-II™

第2世代のMicro-Orifice Uniform-Deposit
Impactor (Moudi-II™)です。
サイズ別に分級されたエアロゾル粒子のサンプル
をサブミクロン及び
ナノメータのサイズレンジで捕集し、質量分析
及び化学分析が可能！！



	Moudi-II™	NanoMoudi-II™
流量 L/min	30	10
インパクタステージ数	11	13
カットポイント直径 (μm)	0.056、0.10、0.18、0.32、0.56、 1.0、1.8、3.2、5.6、10、and 18	0.010、0.018、0.032、0.056、 0.10、0.18、0.32、0.56、1.0、 1.8、3.2、5.6、and 10
電源	90-264VAC、47-67 Hz、40W	90-264VAC、47-67 Hz、40W
外観寸法 (WxHxD)	約254 X 660 X 445mm	約254 X 660 X 445mm
質量	約10Kg	約10Kg

お問い合わせは



大阪・東京・名古屋

本社: 〒565-0805 大阪府吹田市清水2番1号
TEL 06-6877-0477
FAX 06-6877-6849
<http://www.kanomax.co.jp/>



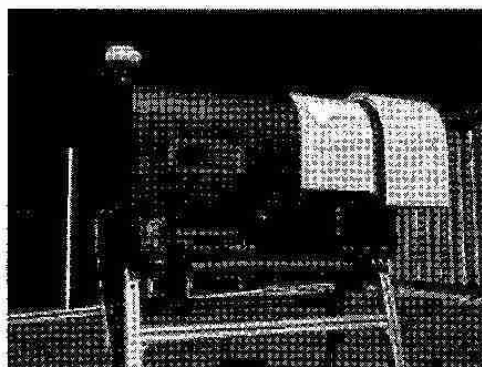
JQA-2790 JQA-EM1628
ISO9001,ISO14001 認証取得



近年、地球環境問題は、非常に高い関心を集めており、その現状を把握するための、様々な観測、分析、計測機器の必要性も急速に高まっています。

その分野にリモート・センシング、特にマイクロ波・ミリ波領域での計測の要望があります。RPG社では、お客様のご要望に応じて、応用性に富んだ、ラジオメータを製作しております。

一例として、RPG-HATPROをご紹介します。



Parameter	Specification
System noise temperatures	<500 K for 22-31 GHz profiler, <600 K for 51.4-58.0 GHz profiler
Radiometric resolution	0.15-0.3 K RMS @ 1.0 sec integration time
Channel bandwidth	2000 MHz @ 58.0 GHz, 1000 MHz @ 57.3GHz, 600 MHz @ 56.66 GHz, 230 MHz @ all other frequencies
Absolute system stability	1.0 K
Radiometric range	0-400 K
Absolute calibration	with internal ambient & external cold load
Internal calibration	gain: with internal ambient temperature target gain + system noise: amb. Temp. target + noise standard abs. cal. of humidity profiler : sky tipping calibration
Receiver and antenna thermal stabilization	Accuracy <0.03 K
Gain nonlinearity error correction	Automatic, four point method
Brightness calculation	based on exact Planck radiation law
Integration time	>=1 second for each channel
Sampling rate for profiles	> 1 sec, user selectable
Data interface	RS-232, 115 kBaud
Data rate	8 kByte/sec., RS-232
Instrument control	PC notebook, Pentium based
Housekeeping	all system parameters, history documentation
Retrieval algorithms	neural network, lin. / nonlin. regression algorithms
Optical resolution	HPBW: 3.5° for water vapour, 2.5° for temperature profiler
Sidelobe level	<-30dBc
Pointing speed	elev.: 45°/sec
Operating temperature range	-30°C to 45°C
Power consumption	<150 Watts average, 350 Watts peak (without dew blower heater)
Input voltage	90-230 V AC, 50 to 60 Hz
Weight	60 kg (without dew blower)
Dimensions	63x36x90cm

国際商品をサプライする

 総合電子株式会社

〒206-0025 東京都多摩市永山6-22-7 多摩郵便局私書箱32号

TEL : 042-337-4411 (代) FAX : 042-373-1919 フリーダイヤル : 0120-095-442

E-mail : sogo@sogoel.co.jp URL : http://www.sogoel.co.jp

MITSUBISHI
三菱電機
Changes for the Better



全光ファイバ型ライダーシステムが、 風向風速を容易に遠隔計測!!

三菱電機の小型光ファイバドップラーライダーシステムは、
レーザー光による、最先端のレーダ(光波レーダ)システムです。
レーザー光を送信し、大気中のエアロゾル*からの散乱光を受信して、
エアロゾルの移動速度から上空の風向風速を容易に計測できます。

*エアロゾル:大気塵、目に見えない大きさ1/10~数ミクロンの浮遊粒子

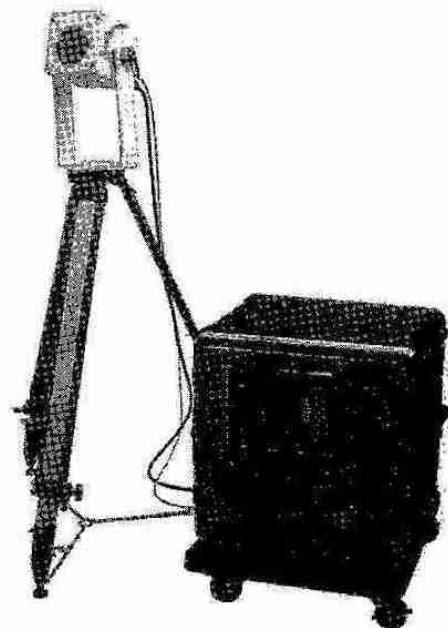
〈主な特長〉

- 大気境界層内を水平距離2kmまで計測可能。
- 雨滴をターゲットにするレーダと異なり、晴天時でも計測可能。
- アイセーフ波長(近赤外/不可視)レーザーで、目に対する安全も考慮。
- 全レーザー光回路を光ファイバで結線したため、移動や設置が容易。

〈適用分野〉

- 気象観測:上層風の鉛直プロファイル、局所風の計測
- 都市災害:ビル風、高速道路や小型航空機などの突風計測
- 大気環境:都市熱・工場排気の拡散監視、風力発電の風況調査

三菱小型光ファイバドップラーライダーシステム



静止気象衛星MTSAT-1R / 2 HRIT, LRIT受信システム

MTSAT衛星から配信される高解像度のHRIT(High Rate Information Transmission:高速情報伝送)の直接受信システム(Lexical社)及び低解像度のLRIT(Low Rate Information Transmission:低速情報伝送)の直接受信システム(自社製品)により各種の解析処理システムを提供します。

X-Band 衛星データ受信システム

EOS Terra and Aqua衛星 MODIS受信システム

1. 高信頼性の2.4m, 3.0m, 3.6mアンテナを採用し安定した自動受信動作を実現しています。
2. NASA標準 MODISアルゴリズムによるソフトウェアによりLevel 1, 2, 3及び4までの各種処理に対応しています。(Global Imaging社)
3. MODISデータ高速処理ソフトウェアRaMPS(SeaSpace社)によるLevel 1, 2処理を提供しています。
4. NPP, NPOESS衛星受信装置への拡張を予定しています。

Micro Rain Radar MRR-2(ドイツMETEK社製)

1. 観測高度2500m, 測定間隔:35~200m, 測定時の平均化処理時間:10~3600sec
2. 周波数帯:24GHz, 送信出力:100mW, アンテナサイズ:Offset-parabolic 60cm の超小型
3. 長期間の無人運転が可能、データの取得はノートPC(Windows2000, XP)
4. 雨量測定, 雨量の鉛直プロファイル, LWC, 雨滴サイズの分布等の観測が可能

リモートセンシング関連商品

- ・気象衛星「NOAA APT」受信システム
- ・気象衛星「NOAA HRPT」受信システム
- ・気象衛星「METOP AHRPT」受信システム
- ・衛星画像解析ソフトウェア

- NPS-1シリーズ(陸上用・船舶用)
- (陸上用・船舶用)
- (陸上用・船舶用)

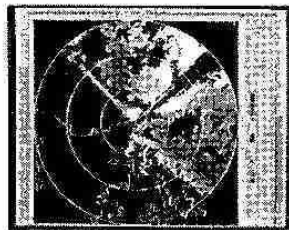
IPSR(JAXA, JAFICデータ等の解析が可能)

E-mail depart.no1@nhe.co.jp

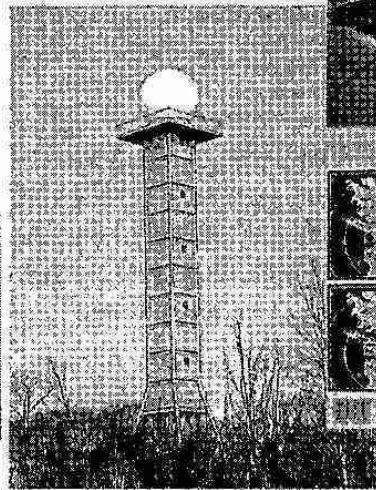
NHE 日本船用エレクトロニクス株式会社 〒221-0044 横浜市神奈川区東神奈川2-40-7
TEL (045)453-6914 FAX (045)453-6919

気象観測の進化をささえる、JRCのレーダ技術。

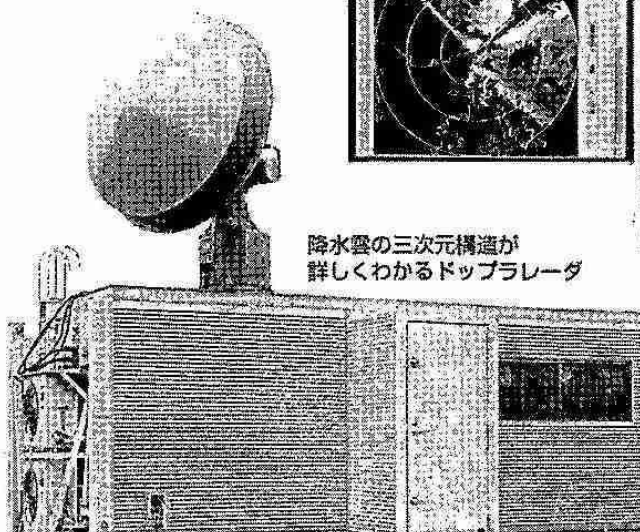
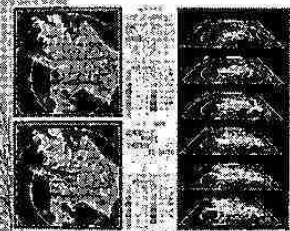
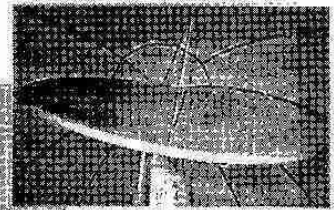
1954年(昭和29年)、国内で初めて気象レーダを完成させたJRCは、以来企業活動や暮らしと密接な関わりのある気象予報の発達に取り組んでいます。



降水雲の三次元構造が詳しくわかるドップラレーダ



全国各地の気象台で活躍する気象レーダ



JRC 日本無線株式会社

JRCホームページ <http://www.jrc.co.jp/>

本社事務所 〒107 東京都港区赤坂2丁目17番22号 赤坂ツインタワー本館

北海道支社 〒060 札幌市中央区北3条西7 北海道水産ビル ☎(011)261-8321(代表)

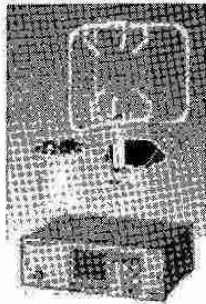


超音波風向風速温度計

DA-600シリーズ

乱流・熱収支・水収支観測や風洞・ビル・橋梁風などの観測に...

- 3次元風速成分を測定
- ハイレソンスでの風と湿度変動を測定
- 「ゼロ」m/secからの風速を測定
- 3種類、8タイプのプロープをラインアップ



DA-600シリーズ



SATシリーズ

三次元超音波風向風速計

SATシリーズ

水平風向風速に加え鉛直方向の風速も測定可能

★New! SAT-600登場 (ヒータ標準装備・耐候性強化)

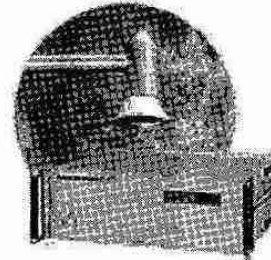
- 機械的な構造がないため、過激的な変化にも追従可能
- 0m/s付近の微風速から60m/sの強風までハイレソンスで測定可能

超音波積雪深計

SL-350シリーズ

最適超音波周波数(40kHz)を使った非接触測定のため雪面を乱すことはありません

- 昼夜を問わず厳しい気象条件下でも安定計測が可能
- 独自の自動追従型雑音除去方法による高精度、高信頼性
- 気象庁・全国地域観測網 アメダスに正式採用



SL-350

本 社

〒190-1295

東京都西多摩郡瑞穂町箱根ヶ崎東松原19-6

TEL 042-568-3200(代表)FAX 042-568-3300

URL <http://www.kajosonic.co.jp>

E-mail info@kajosonic.co.jp

販売グループ

〒101-0052 東京都千代田区神田小川町2-1

シンコー・ミュージック・プラザビル5階

TEL 03-3294-7620 FAX 03-3294-7630

株式会社 カイジョーソニック

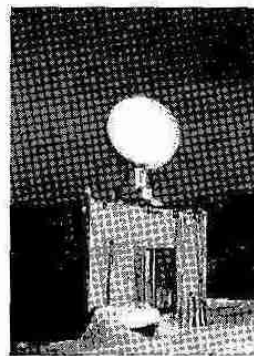
MITSUBISHI

Changes for the Better

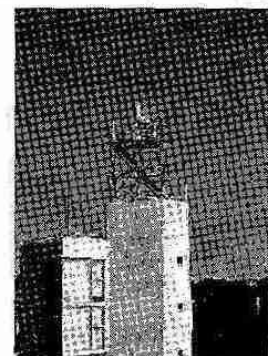
局地観測用気象レーダー

MDT-WR90*シリーズ

- 観測範囲 : 半径 30/60km
- 空中線径 : 1.2m
- 送信尖頭電力 : 40kW
- 空中線装置質量 : 300kg以下
- 消費電力 : 1.5kVA以下



冬季移動観測例



既存のタワーに仮設した例

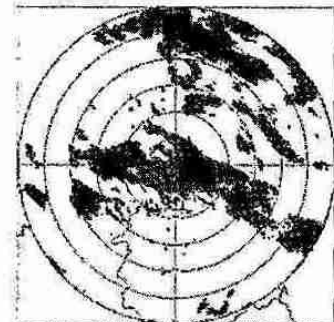
局地観測用気象レーダーは、盆地など広域レーダー網の観測遮蔽地域の観測などに有効な小型・軽量のXバンド気象レーダー装置です。(防災・治水・利水・交通への寄与)

- ・ 局地的な気象現象の観測が可能(局地的降雨、降雪等)
- ・ 小型・軽量なため運搬・展開が容易

ドップラー観測、仰角制御機能を持ち、フィードームやレドームをオプションとして用意しております。

<事業内容>

レーダー等、電波応用機器、電子応用機器および通信機器の製造、修理ならびに販売



観測表示画面例

三菱電機特機システム株式会社

営業本部 〒141-0032 東京都品川区大崎1丁目15番9号 光村ビル6階

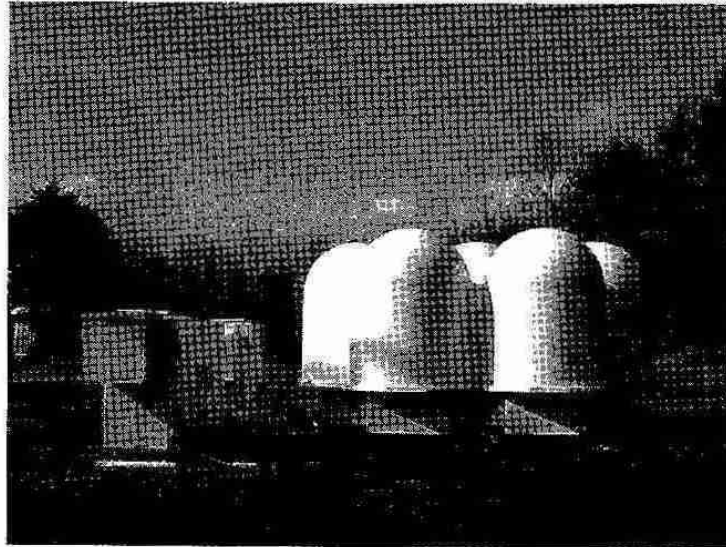
TEL 03-5719-8645 FAX 03-5434-2060

営業担当 電子営業部 上治 e-mail : sales@eastmelos.co.jp

Ingenious Dynamics

Lバンド ウィンド プロファイラ レーダー LQシリーズ

新モデル(2006年発売)



(写真) 京都大学 信楽観測所



住友電工 ハイブリッド営業部

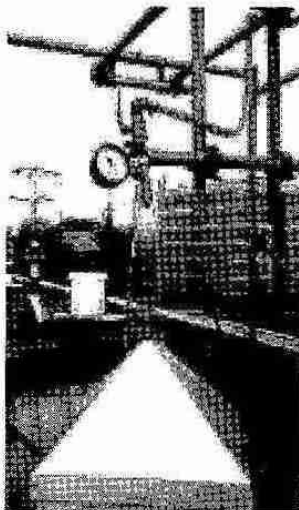
〒107-8468 東京都港区元赤坂1-3-12

<http://www.sei.co.jp/> Tel : 03-3423-5151

Senecom

“雨” “雪” “風”を

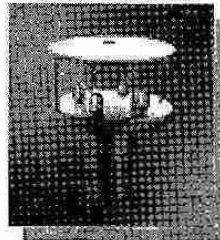
メンテナンスフリー機器で!



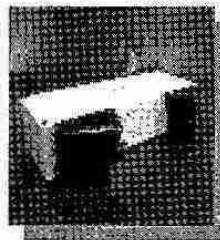
雨滴粒径分布測定器
ディストロメーター
■雨滴を側面から観測
■雨滴の2次元の観測により扁平率を算出



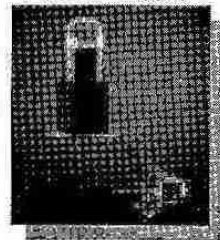
超音波風向風速計



レーザー視程計



ドップラー雨量計



雲被覆率測定器



光学式雨量計



レーザー視程計



超音波風向風速計



■営業品目

水位計・土壌水分計・雨量計・レーザー視程計
風向風速計・冬期路面情報システム GMA
その他、各種気象センサー・計測機器・システム
なども取り扱っております。

株式会社 セネコム

〒 332-0015 埼玉県川口市川口 4 丁目 9-2 三井川口ビル
TEL 048-242-0770 FAX 048-242-0771

info@senecom.co.jp [http:// www.senecom.co.jp](http://www.senecom.co.jp)

所属(住所)変更届

旧所属・住所	郵便番号 〒 —
新所属・住所	郵便番号 〒 —
郵便物送り先	郵便番号 〒 —
ふりがな	
氏名	
	TEL () —
会員番号	No.

北海道支部送付先：〒060-0002 札幌市中央区北2条西18丁目
札幌管区气象台技術部気候・調査課内
日本気象学会北海道支部事務局
Tel: 011-611-6147
Fax: 011-611-3206
ホームページアドレス <http://msj-hokkaido.jp>

本部送付先：〒100-0004 東京都千代田区大手町1-3-4
気象庁内 日本気象学会事務局
Tel: 03-3216-4403
Fax: 03-3216-4401
E-mail jmetsoc@blue.ocn.ne.jp

研究発表会申込み方法及び原稿作成要領

1 研究発表会申込みの方法及び期限

(1) 申込み方法

申込み希望の方は、申込み期限までに発表題目・氏名（共同研究の場合、発表者の左肩に○印）・使用機器（P C・プロジェクター使用の有無）を北海道支部事務局まで提出すること（P Cは各自持参のこと）。

(2) 申込み期限

第1回研究発表会（5月20日必着）、第2回研究発表会（10月20日必着）

2 研究発表会原稿作成要領及び提出先

(1) 原稿用紙

A 4版（縦長・横書）に上下左右のマージンを1 cm とった用紙を使用する。

この原稿用紙に書かれたものをそのまま写真でB 5版の大きさに縮小して印刷する。従って執筆者が書いた文字・図表はそのままの姿で印刷され、原稿用紙一枚が1頁となる。この原稿用紙をB 5版に縮小する割合は0.86なので、図表もこの比率で縮小されるので注意すること。

(2) 原稿の記入

原稿の体裁を統一する必要から、最初の行の中央に標題（本文より大きい文字を書き、長い場合2行にわたっても差し支えない）、1行あけて右側に氏名と（所属）を書く。連名者が多い場合は、次の行にわたっても良い。本文は章だてとし、本文が7行目あたりから始まるように記入する。原稿は1編をA 4版用紙1～2枚に書き、なるべく余白を出さないように留意すること。

文字・図表などは黒色で出力すること。カラーの図表は、全て白黒に印刷され、明瞭に印刷されない恐れがあるので、できるだけ使用しないこと。

提出された原稿は編集印刷の際、用語、文字などの訂正が難しいので、原稿作成にあたっては十分に注意すること。読み難い原稿は書き直しをお願いすることもあります。

(3) 図 表

図表はその大きさや、図表中の文字・数字の大きさ等について縮小の比率を十分に考慮し、見苦しくならないように作成する。

- ・原稿用紙に直接図表を記入するか、貼り付ける。
- ・グラフ用紙を使用する場合は、罫線が濃いものを使用しない。
- ・図表には標題と説明文も付加する。

(4) 提出先

原稿は研究発表会当日会場へ持参し支部事務局に提出するか、7月末日までに支部事務局に提出する（電子媒体での提出可）。

原稿に使用した図や写真の返却を必要とする場合は、提出の際にその旨お知らせ下さい。

— 細 氷 No.54 —

平成20年9月30日 印刷
平成20年9月30日 発行

編 集 日本気象学会北海道支部
発 行 編集委員 名古 順一
〒060-0002 札幌市中央区北2条西18丁目
札幌管区気象台気候・調査課内
Tel (011)611-6147

印刷所 クリーンホソクラ
〒064-0810 札幌市中央区南7条西13丁目
Tel (011)521-2355